

# 自尊感情の基盤を育むためには ～支援訪問より～

子どもの気持ち

保育者の関わり

## 【事例】

体の使い方がぎこちなくバランスを崩し、よく転んだりぶつかったりするという実態から、保育者がサーキットコースを構成しました。子どもは、高低差のある平均台を渡ったり巧技台から飛び降りたりすることを楽しんでいました。遊びに取り組みとうしなかったA児が、できるようになっていった過程や次の活動に意欲的に取り組むようになったことから、自尊感情の芽生えを考えてみましょう。

### 自尊感情 安心感・信頼感 『やりたいな』

### 自己表出 『やってみよう』『できたよ』

### 自己肯定感 『たのしいな』

A児の姿

#### 葛藤する

- ・『やりたいなあ・どうかなあ』という不安な気持ち
- ・挑戦しようか躊躇している

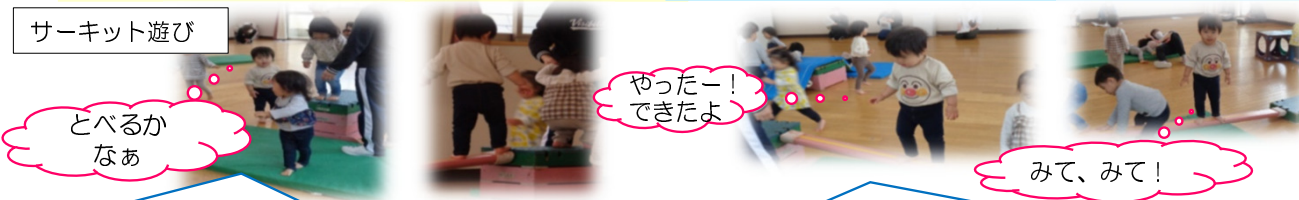
#### 挑戦する・満足感や達成感を味わう

- ・『やってみよう』という気持ち
- ・『できた』という喜びと達成感・満足感

#### 意欲的に活動する・友達を受け止める

- ・『できた』という自信から意欲的に活動する
- ・友達の気持ちに気付き、譲り合う

サーキット遊び



絵本を見る



- ・やりたい・できるかなという子どもの思いを表情から受け止める。
- ・子どもの心の動きや行動を見守る。
- ・次第にやりたいと思う気持ちに変化していく様子を探え、タイミングよく声を掛ける。
- ・挑戦していこうとする子どもの動きに合わせた言葉掛けをすることで、安心して取り組めるようにする。

- ・「大丈夫だよ」ということを言葉や表情で子どもに分かるように伝える。
- ・自分でできたという喜びに共感する。
- ・子どものおもしろい・楽しいという思いを受け止め、存分に遊べるようにする。

- ・自分だけで見たいと思う気持ちも受け入れながら、友達も同じ気持ちをもっていることに気付くようにする。
- ・友達と一緒に楽しいという気持ちを共有する。
- ・自信を付け安定している姿を捉え、「ちょっと頑張ってみよう」と思えるような言葉を掛ける。

## 明日の保育につなげるための振り返りを行ってみよう

### 保育者の行った援助

- ・初めての事柄に自分から入りにくい子どもが多いことから「待つ」「見守る」の援助を大切に行ってきた。
- ・子どもの姿を理解し、心の高揚や意欲を受け止め、タイミングよく声を掛けるようにした。

### この遊びから育ったところ

- ・初めての物に自分から関わり、やりたいと思う気持ちももてた。
- ・やればできた、楽しい気持ちになった等、肯定的な気持ちが芽生えた。

明日の保育を考える

### 保育者の願い

- ・自分のやりたい遊びを選び、気持ちを出してほしい。
- ・身近な環境に関わり楽しんでほしい。
- ・「できたよ」「楽しいよ」の経験を積み重ねてほしい。

### 保育者の援助のポイント

- ・遊びの場を昨日と同じように整え、安心感をもって繰り返し遊びに取り組めるようにする。
- ・思いを出して、十分に遊べる時間を確保する。
- ・子どもに伝わるように、頑張ったところを具体的に認める。

自尊感情の育ちを振り返ろう

### 評価・改善

- ・1歳児にとって保育者との信頼関係がとても重要であることが分かった。
- ・安心感を土台にして、自分を出していこうとするまで、保育者が子どもに寄り添って「待つ」「見守る」ことを重視した関わりが必要である。子どもが自己表出していこうとする自尊感情の育ちにつながっていった。
- ・子どもの頑張りや保育者や周りの人に認められるようにし、自己を発揮できるようにしていきたい。